

平成18年度学術創成研究費 事後評価結果

研究課題名	脳における「匂い地図」と「嗅覚記憶」の解析	研究代表者名	森 憲作
-------	-----------------------	--------	------

1 研究計画、目的の達成度について

当初の研究計画、目的に照らし、採択時以降の関連分野の学術動向を踏まえた上で、その達成の度合いはどうか。

- ア () 予定以上に達成した
- イ (×) 概ね予定どおり達成した
- ウ () 一部不十分である
- エ () 達成していない

意見：
嗅球の構造的特徴地図に関する研究は十分に達成された。嗅皮質の感覚ゲーティングの発見など予想外の進展もあるが、そのメカニズムという点では今後の研究の展開を期待したい。

2 当該学問分野及び関連学問分野への貢献度について

当該学問分野及び関連学問分野における研究の発展に関し、貢献の度合いはどうか。

- ア () 十分に貢献できた
- イ (×) 概ね貢献できた
- ウ () 一部貢献できた
- エ () 貢献できていない

意見：
本分野の研究は競合の厳しいものであるが、その中で独自の分野の研究を進めている。

3 研究成果について

(1) 学術創成研究費の趣旨及び当初の研究計画、目的に照らし、学術創成研究費としての意義ある成果をあげたか。(又はあげつつあるか。)

- ア () 非常に高く評価できる
- イ (×) 概ね高く評価できる
- ウ () 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
今後大きな研究の進展につながる可能性のある研究成果を挙げており、学術創成として相応しい研究を進めている。

(2) 研究成果の普及性、波及性はどうか。また、研究成果の積極的な公表に努めているか。

- ア () 非常に高く評価できる
- イ (×) 概ね高く評価できる
- ウ () 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
嗅覚研究のみならず脳科学の研究としてもその成果は普及性、波及性の高いものであり、成果公表をより積極的に進めることを期待する。

4 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A +	期待以上の進展があった
×	A	期待どおり進展した
	B	期待したほどではなかったが、一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い

総合的な評価意見：

「匂い地図」の研究成果はこれまでの研究の延長線上にあるもので、より詳細な解析へと進んだと評価できる。感覚ゲーティングの予想外の成果は感覚系情報処理の新たな問題を提起するものとして高く評価できる。本研究とその周辺領域との関連や分子レベルでの解明に関しては、国際的に見たときにより高いレベルの成果を示す必要があり、今後の発展を大いに期待したい。